

【磐田税務署長賞】

「託されたバトン」

磐田市立豊田中学校 三年 宮沢 音

進級して初めての登校日。朝は軽いかばんも、帰りになれば何倍にも重くなると思うと、少し憂鬱になる。そう、新しい教科書が配られるのだ。

「教科書配るので名前書いてください。」その言葉を合図に、どんどんど自分の手元に教科書が届き、名前を書こうと裏面にした。その瞬間に入ったのは、「この教科書は、これから日本の担う皆さんへの期待をこめ、税金によつて無償で支給されています。大切に使いましょう。」という言葉だ。確かに、その言葉が書かれている教科書に、値段は記載されていない。でも、全国の小中学生九百万人以上にも配布するとなれば、膨大な額が発生するはず。あれ、そのお金は、税はどこからどうやって…？私は、頭の中でたくさん疑問符を浮かべる一方で、少し「税」に対しての興味が湧いた。だから、この機会に「税」について調べてみることにした。

まず、配布される教科書に当たられる予算についてだ。文部科学省によると、義務教育教科書購入費として、約四百七十一億円となつていて。そうだ。数字で見ても実感が湧かないため、東京ドームの建設費用に例えて表してみよう。なんと一・四個分だ。そんな膨大な額にもなる教科書は、どこから発生するのだろう。

次に調べたのは、そのお金のもととなる「税」の集まり方についてだ。国家予算は、百十五兆九百七十八億円。この歳入の内訳の中で、最も割合が大きいものは、「所得税」「消費税」「法人税」などを含む「租税及び印紙収入」だ。私たち中学生に最も身近である「消費税」は、商品を買うなどしたときに、本体とは別に支払うお金のことである。それに対し、「所得税」は、稼いだ人に、「法人税」は会社にかかる税金であり、社会に出た人、すなわち今の日本を担つている人が納めるものだ。ここまでくれば、もう今の私には十分であるくらいの知識、そして何より大切なことに気づかされた気がした。「今の日本を担つている人」から「これから日本の日本を担う私たち」へのバトンが、「教科書」として…。

テスト週間だ——教科書持つて帰ろう。

今までは憂鬱に感じていた、あの重さ。学校から家までの短い距離の間で、どれだけ立ち止まりたいと思つただろう。でも今は違う。たくさんの人からの期待が、形となつて現れた教科書。その重みを感じながらも、軽快に、一步一歩確実に。託された未来へと希望を抱きながら、私は、今も進んでいる。

【磐田財務事務所長賞】

「誰かの役に立ちますように」

磐田市立磐田第一中学校 三年 高屋敷 駿太郎

三陸の美しい海を臨む、岩手県久慈市。ここに僕の祖父母は住んでいる。久慈市は二〇一一年の東日本大震災で発生した八・六メートルの津波によつて浸水や家屋の倒壊などが発生し、死者、行方不明者合わせて四名、倒壊した家屋は二百七十八棟という甚大な被害がでた都市だが、「税」によつて復興に成功した都市でもある。僕の祖父母は、

「国の復興資金によつて、浸水したり、倒壊したりした病院や学校が再建されてとても暮らしやすくなつた。」

と言つていた。しかし、僕はこの「税」に対してもいいイメージを持つていなかつた。なぜなら、以前見たネット上の動画で「収入が高くなると税金も高くなつてしまふ」など税に対して悲観的な声が多くたからである。正直自分自身も「税」はなぜ納めなければならぬのか考えようともせず、「税」は必要ないものと決めつけていた。だから、普段の生活の中で商品を買うとき払わなければならない消費税や、自分が将来払うことになるであろうたくさんの税金に嫌悪感を抱いていた。

そんな中、学校で税理士さんから「租税教室」という授業を受けた。税理士さんの話の中で災害復興の話が出てきてハツとした。久慈市のあのきれいな港も道路も、インフラ整備などもすべて僕達が払つていい「税」で復興されているんだなと思い、「税」が何に使われているかも知らずに勝手に「税は必要ないものだ」と決めつけていた自分が恥ずかしかつた。早速家に帰り、他に税が何に使われているのかを詳しく調べてみた。それによると、僕が住んでいる静岡県磐田市やその周辺地域がわかつた。自転車に乗ることが趣味な僕は、実際に磐田市にある防潮堤を見に行つてみることにした。目の前には自分の身長の何倍もある防潮堤がそびえ立つてゐる。他にも周りにはたくさんの津波避難塔があり、税の使い道を身にしみて感じる事ができた。

「税」というのは未来への投資であり、いつ、誰のために使われるかはわからないが、自分に使われなくても誰かのために使われるといふことはとても気持ちの良いことだと思い、税に対する意識が良い印象に変わつた。普段何気なく買つてゐるお菓子や飲み物の消費税なども「税」として使われていることが分かり、これからは物を買うとき自分もしくは誰かの役に立つていることを心に留め、快く税を納めようと思う。いつかこの税が、誰かの役に立ちますように。

【磐田市長賞】

「税が与える幸せな暮らし」

磐田市立磐田第一中学校 三年 小林 茅生

身近な税について考えていたら、昨日にあつたエピソードを思い出した。

私の兄が高校生になる直前の春休みの頃、どこからか帰ってきた兄は、「ただいま」

と挨拶をすると同時に、大きな荷物をドサツと床に置いた。中身が気になつた私は、どこへ行つていたのかをたずねると、

「本屋で教科書を買つてきたんだよ。」

と兄は言つた。教科書を「買つてきた」という聞き慣れない言葉について一瞬考え、はつと気づいた。高校生からは教科書は配られず、買わなければならぬのだと。今になつて考えてみると、自分の使うものを買うことは「当たり前」のことだ。だが私は、教科書をもらうことができることを「当たり前」だと思つていた。とても身近な存在であるのに、きつかけがなければ考えることがなかつた。そんな自分を少し恥ずかしく思い、自分はどのくらいの税金に支えられているのかを知ろうと思った。

調べてみると、中学生の生徒一人あたりの年間教育費の負担額は、約百万円であることが分かつた。予想していた金額よりもはるかに高かつたため、衝撃だつた。また、税金で支払われている教育費には、義務教育の運営費などがあり、年間で約三兆円以上もの税金が使われていることも分かつた。想像もつかないほど大きな数字だつた。そして、教育費以外にも、子供の医療費の助成制度があることを知つた。これも、私たちからお金の負担を減らし、安心安全で暮らせるための制度の一つだ。私が病院に行き、お金を払わずに薬をもらつていたことは、この制度のおかげなのだと気づいた。

調べてみて、たくさんの税が自分たちのために使われていたり、私たちが幸せに暮らすための制度があることが分かつた。毎日学校に通い、大好きな友達たちと授業を受け、家に帰つたら教科書を開き、勉強をする。この私の生活は「当たり前」ではなく、たくさん的人が納めた税金によつて成り立つてゐるものだと実感した。これからは、税は払わなければならぬもの、という意識ではなく、みんなの幸せな暮らしを支えるもの、そして自分が豊かな暮らしを送るためのものだという意識に変えようと思つた。

私は、まだ子供なので払う税の種類は少ない。だが、少ない税でも、世の中の人の幸せを作るための一ピースだと思い、気持ちよく納税で

きる人になりたいと思った。また、私のために使われている税金を無駄にしないように、真面目に授業を受け、勉強に励み、納税以外の行動でも、恩返しをしようと思った。そして、税金によつて与えられた幸せな暮らしを、精一杯幸せに送ろうと思った。

【磐田税務署管内青色申告会長賞】

「税で社会をよりよく」

学校法人磐田東学園磐田東中学校 三年 櫻井 舞花

最近、ニュースでよく参議院選挙について報道されていて、「減税」という言葉をよく聞くようになつた。多くの政党が公約として「消費税の減税」を掲げているからだ。演説でも、増税による生活の困窮を問題視している。それらを聞いて私は、「税金を減らして大丈夫なのかな。」と疑問に思つた。なぜなら、授業では、税によつて私たち子供は学校に通わせてもらつていて、教科書を使い勉強ができるのだと習つたからだ。他にも、日常生活の中のたくさんのことにつき税金が使われている。そして、その税金を誰もが平等に払うことができるのが消費税であるから、私は消費税を減らしてしまつたら、教育などのお金はどうなつてしまふのだろうと思つた。

ある日、公務員である父と、税について話をした。公務員の給料は、税金から出ていると聞いたことがあつたため、減税して大丈夫なのかと疑問に思つて聞いてみた。父は、

「公務員の給料は、所得税などから出されているから、消費税は関係ないよ。」

と教えてくれた。所得税とは何だろう。あまり税について知ろうとしてこなかつたため、分からなかつた。調べてみると、所得税とは会社からもらう給料や、自分で商売をして稼いだお金などにかかる税で、一年の所得が多いほど税金がかかるものだと知つた。これを見て私は「不公平だ」と思つた。人それぞれ払う料金が違うのはどうなんだろうか。しかし、所得税には所得再分配というものがあると知つた。社会の暮らしを守るために、所得の格差を無くすことのできるような機能だ。社会には様々な人がいて、経済的に生活が苦しい人もいる。その人たちを救えるよう、所得税があるのだと分かつた。そう考えると、消費税は誰もが払うことのできるため、「平等」だと考えていたが・生活が苦しくても高い税金を払わなくてはいけないのは、税金のあり方として少し矛盾しているように感じる。税金は、みんながお互いに支え合い、共によりよい社会を作つていくため、広く公平に分かち合うことが必要だと言わっているからだ。「消費税の減税」を多くの政党が公約として掲げている理由を、少し理解できたような気がする。消費税を減らすことで、家庭の負担は軽減できる。しかし、国の税収が減少し、社会保障サービスの低下などの可能性があるというデメリットもある。

「税金」は、様々なことに関わつていて、すぐに減らすというのは難しいことなのだと思う。しかし、今の状況で苦しんでいる人たちがいるのも事実で、減税をすることで大変になることがあるというのも事実だ。だからこそ難しい。でもそこで、関係の無い話だからと目をそむけるのは違うと思った。私達が社会人になつた時、どんなことを目指して

いけば、より多くの人が過ごしやすい世の中になるのか。私たちも、世の中を変えることができるということを忘れないでいたい。